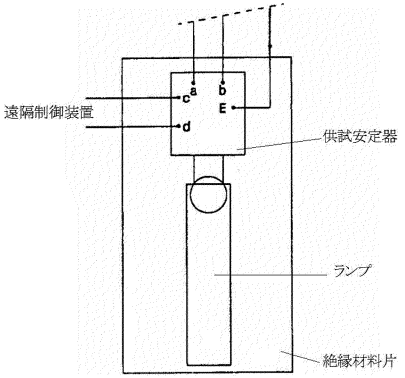
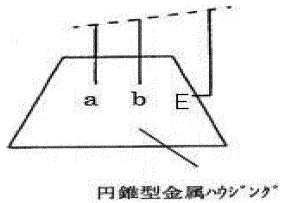
1　独立型安定器の測定配置

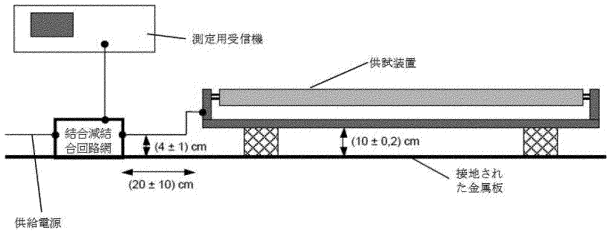


2　安定器内蔵ランプの測定配置

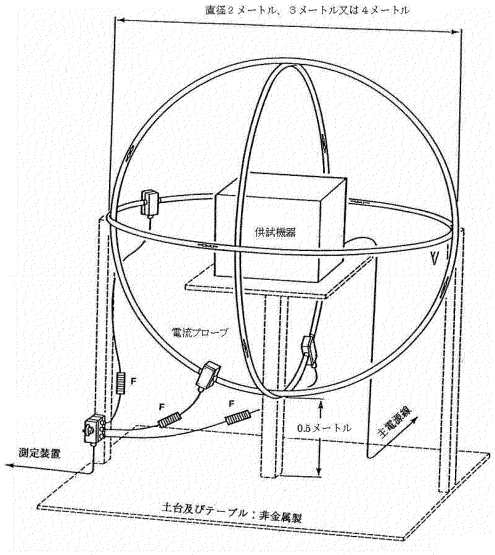


注１　測定用受信機は、Ｖ形擬似電源回路網に接続すること。
　２　図中のａ及びｂは電源端子を、ｃ及びｄは制御端子を、Ｅは接地端子を表す。
　３　Ｖ形擬似電源回路網の供試装置接続端子と端子ａ及びｂとは、0.8メートル±20パーセント離し、かつ、0.8メートルの長さのフレキシブル３芯ケーブルの２本の芯線で接続すること。

別図第三号　妨害波測定用結合減結合回路網により測定される妨害波電圧の測定配置



別図第四号　磁界強度の測定配置方法



注　Ｆは、フェライト吸収体を表す。

別表　測定器の基本的特性

項目	被測定機器の電波の周波数が一〇kHz以上一五kHz未満の測定器	被測定機器の電波の周波数が一五〇kHz以上三〇MHz未満の測定器	被測定機器の電波の周波数が三〇MHz以上三〇〇MHz以下の測定器
域デ検波ベル器より前の通段の帯六幅シ低下の過	○・一一〇kHz	九kHz	一一〇kHz
検波器の充電時定数	四五ミリ秒	一ミリ秒	一ミリ秒
検波器の放電時定数	五〇〇ミリ秒	一六〇ミリ秒	五五〇ミリ秒
指示計の機械的時定数	一六〇ミリ秒	一六〇ミリ秒	一〇〇ミリ秒
の対ルが負検比指離直荷波器よ。示れ線係数り以計るか性ら入出の一力シ特の最大値の値ベ性過同表すじすご	一四デシベル	三〇デシベル	四三・五デシベル
のに検過挿波負入器荷すと係る指数値示流計増器幅の器間	六デシベル	一一デシベル	六デシベル